

都市再生整備計画 事後評価シート

阿波市やすらぎ空間創造地区

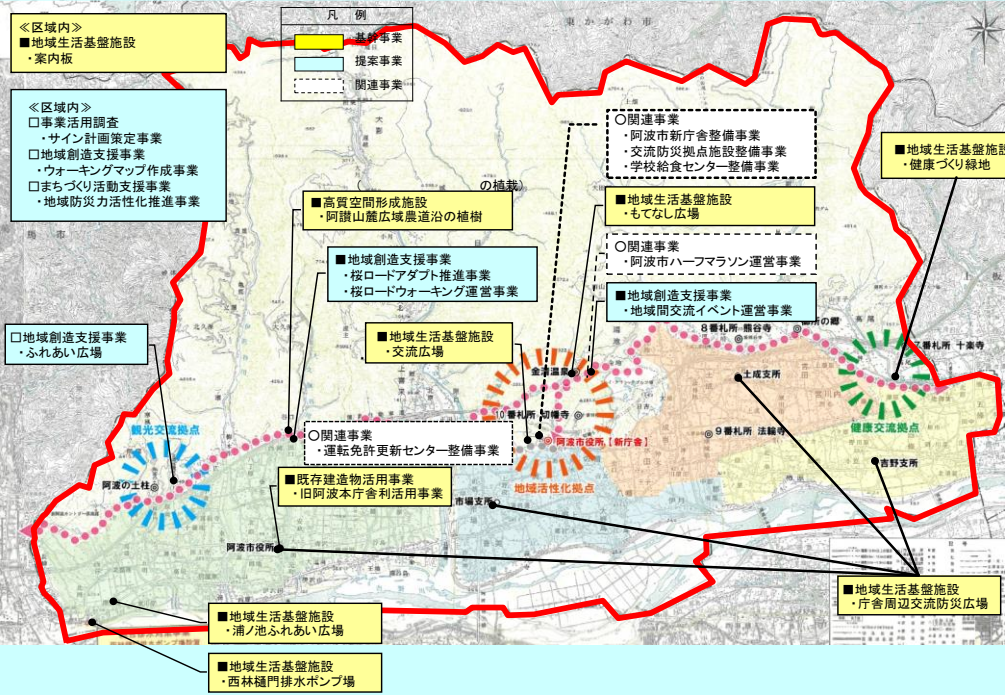
令和3年3月

徳島県阿波市

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	徳島県		市町村名	阿波市		地区名	阿波市やすらぎ空間創造地区			面積	19,097ha		
交付期間	平成26年度～平成31年度		事後評価実施時期	令和2年度		交付対象事業費	1,330.5百万円	国費率	0.40				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 地域生活基盤施設(健康づくり緑地、もてなし広場、交流広場、交流防災広場(4箇所)、西林樋門排水ポンプ場、案内板)、高質空間形成施設(阿讃山麓広域農道沿の植樹)										
		提案事業	地域創造支援事業(ふれあい広場、ウォーキングマップ作成事業、桜ロードアダプト推進事業、桜ロードウォーキング運営事業、地域間交流イベント運営事業)、事業活用調査(サイン計画策定事業)、まちづくり活動推進事業(地域防災力活性化推進事業)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名				削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		提案事業	なし										
	新たに追加した事業	基幹事業	既存建造物活用事業(旧阿波本庁舎利活用事業)				基幹事業で進めていた交流防災広場内の既存建築物の活用方針の決定を踏まえて追加。			交流防災広場内の旧阿波本庁舎の活用を行うものであり、目標、指標、数値目標に影響なし。			
		提案事業	なし										
	交付期間の変更	当初	平成26年度～平成30年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		特になし						
	変更	平成26年度～平成31年度											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	年間ウォーキングイベント参加者数	人/年	300	H24	600	H30		839	○	あり なし	「AWAの道ウォーキング」の定期的な開催もあり、目標値を上回る参加者を確保。	
	指標2	総合防災訓練の延べ参加者数	人	0	H25	3,000	H30		6,025	○	あり なし	自主防災組織と小学校等の合同訓練が開催されるなどにより、目標値を上回る参加者を確保。	
	指標3	観光入込客数の増減率	%/年	-5.5	H24	-3.0	H31		-0.23	○	あり なし	年度によって増減はあるものの、減少傾向に歯止めがかかっている。	
	指標4									あり なし			
	指標5									あり なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	アエルワの運動講座参加人数	人	0	H26			3,600			目標に掲げた「快適な住環境の整備による市民の健康づくり」の実現に寄与		
	その他の数値指標2	応急仮設住宅の建設候補地の確保	戸	0	H26			53			目標に掲げた「大規模災害に備えた防災対策の強化」の実現に寄与		
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	阿波市阿波地域交流センターを整備し、敷地の愛称を公募することにより、市民から親しみやすい施設となっており、他の施設と一体的に、市民交流の場として、地域のにぎわい創出につながっている。また、公園等やウォーキングマップの整備により、身近に散歩等が行える環境が整備され、市民が日常的に身体を動かす機会を創出し、良好な生活習慣の形成に寄与している。												
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング		—				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス		阿波市アダプト事業募集 阿波市特産品のPR(阿波シティマラソン開催日のもてなし)				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も制度・事業を継続して、まちづくりへの住民参画等を促していく。 アダプト事業募集については、制度のPR強化を図る。		
	持続的なまちづくり体制の構築		ウォーキングイベント開催団体 自主防災組織連合会の設立				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ウォーキングイベント開催団体については、今後も既存団体との連携を図り、健康づくりに関する情報を広く市民に周知・啓発していく。 自主防災組織連合会については、未結成地区での設立の促進。		

様式2-2 地区の概要

阿波市やすらぎ空間創造地区(徳島県阿波市) 都市再生整備計画事業の成果概要					
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値	目標値
【大目標】 新庁舎周辺をはじめとした3つの拠点と拠点を結ぶ軸により、住民が安全・安心かつ健康に暮らせる環境を形成するとともに、観光客や市民の交流を促進し地域の活性化を図ります。 目標① 快適な住環境の整備による市民の健康づくり(かいてき空間) 目標② 大規模災害に備えた防災対策の強化(すこやか空間) 目標③ 地域資源を活かした観光・地域交流の促進(にぎわい空間)		年間ウォーキングイベント参加者数	単位:人/年	300 H24	600 H30
		総合防災訓練の延べ参加者数	単位:人	0 H25	3,000 H30
		観光入込客数の増減率	単位:%/年	-5.5 H24	-3.0 H31
			単位:	H	H
			単位:	H	H
 ウォーキングマップ  ウォーキングイベント  浦ノ池ふれあい広場					
まちの課題の変化		・各地域やコミュニティの活動の活性化が図られつつあるが、地域間交流等の取組を促すことが必要である。 ・ウォーキングイベントの参加者等の固定化が見受けられ、運動習慣の無い人に対する健康づくりに関する意識高揚が必要である。 ・小学校区単位での自主防災組織連合会の設置を進めており、更なる組織化を促していくことが必要である。 ・全国的な人口減少・少子高齢化の中で、定住人口の増加は困難面があるが、地域の特色を活かした定住施策に取り組む必要がある。 ・阿波市交流防災拠点施設アエルワや阿波運転免許センターの整備等が行われ、市内への来訪機会が増加しつつあり、来訪機会の増加を活かした関係人口等の増加につなげていくことが重要である。			
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)		・ウォーキングイベントは、健康づくりだけでなく、多世代交流の機会創出につながっており、イベントの継続や多様な参加者の確保等につなげていく。 ・整備した健康づくり緑地やもてなし広場の活用等も含め、多様な機会を活かした健康づくりに関する意識向上に努めていく。 ・各地区の自主防災組織の結成や活動支援とともに、小学校区単位での自主防災組織連合会の設置が進められており(令和3年1月末時点で5小学校区)、未結成の小学校区における設置を促していく。 ・阿波市交流防災拠点施設アエルワや阿波運転免許センターの整備等により、市内外から多くの方が来訪している。これらの来訪機会を活かし、様々なツールを活用して阿波市の魅力を発信し、「阿波市ファン」の創出・拡大を図る。 ・定住・移住の基礎となる住まいの整備や移住者の就業支援など、定住・移住を総合的にサポートする様々な施策を推進する。			



健康づくり緑地(宮川内谷川公園)



阿波市阿波地域交流センター



もてなし広場(金清自然公園)

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3－① モニタリングの実施状況
- 添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5－② まちの課題の変化
- 添付様式5－③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()					

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	健康づくり緑地	46.5	A=10,000㎡	78.4	A=10,000㎡	事業費の変更	－	●	
地域生活基盤施設	もてなし広場	96.6	A=25,000㎡	150.7	A=25,000㎡	事業費の変更	－	●	
地域生活基盤施設	交流広場	62.6	A=15,000㎡	128.5	A=10,330㎡	整備位置の変更、事業費の変更	広場の位置変更であるため、目標、指標、数値目標に影響はなし。		●
地域生活基盤施設	市場支所周辺交流防災広場	73.6		73.4		事業費の変更	－	●	
地域生活基盤施設	土成支所周辺交流防災広場	69.8		75.6		事業費の変更	－	●	
地域生活基盤施設	吉野支所周辺交流防災広場	37.2		49.9		事業費の変更	－	●	
地域生活基盤施設	阿波本庁舎周辺交流防災広場	107.0		10.2		整備内容の変更	当初計画では、旧阿波本庁舎の撤去を想定していたが、既存建造物活用事業による活用を行うこととしたものであり、目標、指標、数値目標に影響はなし。	●	
地域生活基盤施設	浦ノ池ふれあい広場			35.0	A=261㎡	浦ノ池調整池の整備から変更	浦ノ池調整池の整備について、広場としての整備に変更したものであり、目標、指標、数値目標に影響はなし。	●	
地域生活基盤施設	西林樋門排水ポンプ場	200.0	流域＝0.8km ²	154.5	流域＝0.8km ²	事業費の変更	－	●	
地域生活基盤施設	浦ノ池調整池	50.0	流域＝3.2km ²			浦ノ池ふれあい広場の整備へ変更	浦ノ池ふれあい広場の整備に変更したものであり、目標、指標、数値目標に影響はなし。		
地域生活基盤施設	案内板	20.0		20.1		事業費の変更	－	●	
高質空間形成施設	阿讃山麓広域農道沿の植樹	4.5		2.3		事業費の変更	－	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
高次都市施設									
既存建造物活用事業	旧阿波本庁舎利活用			483.0	A=1,632㎡	追加	地域生活基盤施設の阿波本庁舎周辺交流防災広場において、旧阿波本庁舎の活用を行うこととし追加した事業であり、目標、指標、数値目標に影響はなし。	●	
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	ふれあい広場	51.2	A=9,000㎡	56.0	A=9,000㎡	事業費の変更	—	●	
	ウォーキングマップ作成事業	1.0	マップ作成	0.5	マップ作成	事業費の変更	—	●	
	桜ロードアダプト推進事業	1.1	資機材支援、アダプトサイン設置	0.1	資機材支援、アダプトサイン設置	事業費の変更	—	●	
	桜ロードウォーキング運営事業	2.8	企画運営	1.6	企画運営	事業費の変更	—	●	
	地域間交流イベント運営事業	5.0	企画運営	5.0	企画運営	なし	—	●	
事業活用調査	サイン計画策定事業	5.0	計画策定	4.3	計画策定	事業費の変更	—	●	
まちづくり 活動推進事業	地域防災力活性化推進事業	2.5	防災訓練支援	1.4	防災訓練支援	事業費の変更	—	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
阿波市新庁舎整備事業		阿波市市場町切幡字古田	5,500	5,500	平成21年度～平成26年度	平成21年度～平成26年度	平成27年1月に新庁舎に移転。行政サービスの向上等に寄与。	
交流防災拠点施設整備事業		阿波市市場町切幡字古田			平成21年度～平成26年度	平成21年度～平成26年度	平成27年1月に開設。災害拠点施設の整備により、地域防災力の向上等に寄与。	
学校給食センター整備事業		阿波市市場町切幡字古田	1,700	1,700	平成24年度～平成26年度	平成24年度～平成26年度	平成26年9月から供用開始。地場農産物を利用した給食の提供等、地産地消や食育に寄与。	
阿波市ハーフマラソン運営事業		阿讃山麓広域農道周辺	55	55	平成26年度～平成30年度	平成26年度～平成30年度	継続したイベントとして開催しており、多くの参加者を確保。	
運転免許更新センター整備事業		阿波市阿波町東原	—	649	—	平成29年度～平成31年度	令和2年4月に開設。運転免許更新の即日交付等が可能となり、市民や周辺住民の利便性向上に寄与。	第2回変更時に追加

添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
															あり	なし
指標1	年間ウォーキングイベント 参加者数	人/年	各地区、団体で実施している ウォーキングイベントの参加者 数を確認。			300	H24	600	H30	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み	●	839	事後評価	○	
指標2	総合防災訓練の延べ参 加者数	人	平成26年以降の自主防災組織 連合会防災訓練の参加者数を 確認。			0	H25	3,000	H30	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み	●	6,025	事後評価	○	
指標3	観光入込客数の増減率	% / 年	観光客数について、平成25年か ら平成31年の期間の平均増減 率を算出。			-5.5	H24	-3.0	H31	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み	●	-0.23	事後評価	○	
指標4										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み		事後評価			
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み		事後評価			

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	「AWAの道ウォーキング」が定期的 に開催されるとともに、住民団 体が主催のイベントが開催され るなどにより、目標値を上回る 成果を上げることができた。	
指標2	林小学校区、御所小学校区、八 幡小学校区の自主防災組織連 合会による、自主防災組織と小 学校等の合同防災訓練が実施 され、目標値を大きく上回る 参加者となっている。	
指標3	観光客数の減少傾向に歯止めを かける目標を掲げたものであり 、年度によって増減はあるもの の、減少傾向には歯止めがかか っており目標値を達成している。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2ー② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
		単位			基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1	アエルワの運動講座参加 人数	人	アエルワで開催している運動講 座(ヨガ、ピラティス、チアダン ス、JAZZダンス、ZUMBA、スト レッチ)の参加者数			0	H26	モニタリング			目標①「快適な住環境の整備 による市民の健康づくり」の実 現に寄与	
								事後評価	確定 見込み	● 3,600		
その他の 数値指標2	応急仮設住宅の建設候 補地の確保	戸	防災広場の整備による応急仮 設住宅の建設可能戸数			0	H26	モニタリング			目標②「大規模災害に備えた 防災対策の強化」の実現に寄 与	他の建設候補地の確保も進 めているが、速やかな整備が 可能な建設候補地である
								事後評価	確定 見込み	● 53		
その他の 数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2ー参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

阿波市阿波地域交流センターを整備し、敷地の愛称を公募することにより、市民から親しみやすい施設となっており、他の施設と一体的に、市民交流の場として、地域のにぎわい創出につながっている。
また、公園整備やウォーキングマップの作成等により、身近に散歩等が行える環境が整備され、市民が日常的に身体を動かす機会を創出し、良好な生活習慣の形成に寄与している。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
—	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
—	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
阿波市アダプト事業募集	予定どおり実施した	●【実施頻度】随時実施 【実施時期】平成29年9月～継続 【実施結果】市が管理する道路において清掃美化活動を行う市民団体や企業を募集。令和3年1月末時点で2団体が参加。	今後も制度を継続し、市民団体や企業の参画を促す。 参加団体のイメージ向上につながる等のPR強化を図る。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
阿波市特産品のPR	予定どおり実施した	●【実施頻度】阿波シティマラソン開催日 【実施時期】平成26年度～継続 【実施結果】阿波シティマラソンの開催に併せて、市の特産品であるたらいうどんを参加者等にもてなすことで、市の特産品の魅力を発信した。	今後も事業を継続して実施する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
ウォーキングイベント開催団体	予定どおり実施した	●市民の自主的な健康づくり活動の拡大・定着化を促進させるため、市民団体と連携。	市場歩こう会、阿波バーベナ歩こう会、吉野ウォーキングサークルひまわり	今後も既存団体との連携を図り、健康づくりに関する情報を広く市民に周知・啓発していく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
自主防災組織連合会の設立	予定どおり実施した	●自治会ごとの自主防災組織の活動体制の強化を図るため、小学校区単位で自主防災組織連合会の設立を支援。	各小学校自主防災組織連合会(令和3年1月末現在、5地区設立:林小学校区、御所小学校区、八幡小学校区、土成小学校区、市場小学校区)	未結成の地区において、連合会の設立を促す。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
阿波市やすらぎ空間創造地区都市再生整備計画 事後評価庁内検討会議	企画総務課、契約管財課、危機管理課、健康推進課、商工観光課、建設課、営繕課、社会教育課	令和2年9月	企画総務課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標①		指標②		指標③		指標④	
指 標 名		年間ウォーキングイベント参加者数		総合防災訓練の延参加者数		観光入込客の増減率			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	地域生活基盤施設：健康づくり緑地、もてなし広場	◎	各地域に整備した緑地や広場、拠点施設を結ぶ阿讃山麓広域農道沿いの植樹等により、健康づくりとしてウォーキングに取り組む市民が増加しつつある。また、市民団体によるウォーキングイベントの開催も取組まれている。	—	阿波市交流防災拠点施設アエルワや交流防災広場の整備等により、市民の防災意識の高揚に寄与している。また、自主防災組織連合会の組織化や活動の支援等により、地域と学校の合同防災訓練が行われるなど、市民の自主的な防災活動が取組まれている。	◎	各地域に整備した緑地や広場、拠点施設を結ぶ阿讃山麓広域農道沿いの植樹等と併せて、阿波市交流防災拠点施設アエルワ等を活用した地域間交流イベント等の開催により、本市を訪れる新たな機会の創出に取り組んでいる。これにより、観光入込客等の減少傾向に歯止めがかかったものと想定される。		
	地域生活基盤施設：市場支所、土成支所、吉野支所、阿波本庁舎周辺交流防災広場	○		◎		—			
	地域生活基盤施設：交流広場、浦ノ池ふれあい広場	○		—		○			
	地域生活基盤施設：西林樋門排水ポンプ場	—		○		—			
	地域生活基盤施設：案内板	○		—		◎			
	高質空間形成施設：阿讃山麓広域農道沿の植樹	◎		—		◎			
	既存建築物活用事業：旧阿波本庁舎利活用	—		○		○			
提案事業	ふれあい広場	○		—		○			
	ウォーキングマップ作成事業	◎		—		○			
	桜ロードアダプト推進事業	◎		—		○			
	桜ロードウォーキング運営事業	◎		—		○			
	地域間交流イベント運営事業	—		—		◎			
	サイン計画策定事業	○		—		◎			
	地域防災力活性化推進事業	—		◎		—			
関連事業	阿波市新庁舎整備事業	—		○		—			
	交流防災拠点施設整備事業	—		◎		◎			
	学校給食センター整備事業	○		—		—			
	阿波市ハーフマラソン運営事業	○		—		◎			
	運転免許更新センター整備事業	—		—		○			

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	市民団体との連携を図り、健康づくりに関する情報を広く市民に周知・啓発していく。	引き続き、各地区の自主防災組織連合会の組織化を促し、地域や学校等が一体となった総合防災訓練の実施等に努め、地域防災力の向上を図る。	引き続き、整備された緑地や広場等の活用とPR強化等に努めるとともに、様々な施設・資源を活かしながら交流人口・関係人口の拡大等に努める。
-------	---	---	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
阿波市やすらぎ空間創造地区都市再生整備計画 事後評価庁内検討会議	企画総務課、契約管財課、危機管理課、健康推進課、商工観光課、建設課、営繕課、社会教育課	令和2年9月	企画総務課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
市庁舎を核とした市の均衡ある発展	阿波市新庁舎や阿波市交流防災拠点施設アエルワ等の整備により、市の拠点が形成された。また、各支所周辺への交流防災広場の整備等により、各地域の活動拠点が確保され、地域の様々な活動の場となっている。	各地域やコミュニティの活動の活性化が図られつつあるが、地域間交流等の取組を促す必要がある。	阿波市交流防災拠点施設アエルワや阿波運転免許センターの整備等が行われ、市内への来訪機会が増加しつつある。全国的な人口減少・少子高齢化が進む中で、来訪機会の増加を活かした関係人口等の増加につなげていくことが重要である。
体を動かす機会創出や食育等を通じた市民の健康づくり	健康づくり緑地の整備やウォーキングイベントの開催により、市民の健康づくりに関する意識が高まりつつある。また、阿波市学校給食センターの整備を活かした食育の取組等により、健康づくりの意識向上が図られている。	ウォーキングイベントの参加者等の固定化が見受けられ、運動習慣の無い人に対する健康づくりに関する意識高揚が必要である。	
内水対策等による地域防災力の向上	排水ポンプ場や交流防災広場の整備等と併せて、自主防災組織連合会の設立等が進められており、地域の防災力の向上が図られている。	小学校区単位での自主防災組織連合会の設置を進めており、更なる組織化を促していく必要がある。	
魅力づくりや着地型観光の推進による地域活性化、定住促進	各種の施設整備やイベントの開催等により、地域の活性化が図られている。	全国的な人口減少・少子高齢化の中で、定住人口の増加は困難な面があるが、地域の特色を活かした定住施策に取組む必要がある。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	健康づくりの更なる機運の向上	ウォーキングイベントは、健康づくりだけでなく、多世代交流の機会創出につながっており、イベントの継続や多様な参加者の確保等につなげていく。 整備した健康づくり緑地やもてなし広場の活用等も含め、多様な機会を活かした健康づくりに関する意識向上に努めていく。	・ウォーキングイベントの継続開催
	地域防災力の担い手となる自主防災組織連合会の更なる設立	各地区の自主防災組織の結成や活動支援とともに、小学校区単位での自主防災組織連合会の設置が進められており(令和3年1月末時点で5小学校区)、未結成の小学校区における設置を促していく。	・自主防災組織連合会の設置支援 ・各地区の施設を活用した防災訓練等の開催支援

B欄 改 善 策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	来訪機会の増加を活かした関係人口等の増加	阿波市交流防災拠点施設アエルワや阿波運転免許センターの整備等により、市内外から多くの方が来訪している。これらの来訪機会を活かし、阿波市の魅力を伝え、「阿波市ファン」の創出・拡大を図る。	・HPやケーブルテレビなどの既存メディア等を活かした情報発信の強化を図るとともに、新たなメディアやツールを活用し、市民はもとより、市外や県外の方々に「阿波市の魅力」の発信。
	定住・移住を促すための多様な施策の推進	定住・移住の基礎となる住まいの整備や移住者の就業支援など、定住・移住をサポートする様々な施策を推進する。	・総合的なサポートを行う移住交流支援センターの機能強化。 ・新規就農のパッケージ化等による移住促進。 ・市有財産の活用やリフォーム支援などによる住まいの整備・確保。

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5ー③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4ー②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4ー③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5ー②)を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

徳島自動車道のスマートインターチェンジの連結許可を取得し、今後、整備に向けた取組を推進していくことから、産業振興や利便性の向上、災害に強い道路ネットワークの形成等に寄与することが期待される。スマートインターチェンジの整備を活かした様々なまちづくり方策を検討していく必要がある。

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	採用した指標は、毎年度の利用者が数値となっているので、容易に事業の効果を確認することができた。	毎年、データが容易に取得できる指標を選定することで、事業の達成状況がより早く認識できるので、有効である。
	うまく いかなかった点	観光入込客数については、年度ごとの増減があることから、基準年度の数値によって指標に影響が生じる可能性がある。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	阿讃山麓広域農道沿いの植樹と併せたアドプト制度の導入により、道路の維持管理への市民参加が図られた。	植樹等への市民参加等のきっかけを設けるとともに、アドプト制度による継続可能な体制を構築することで、市民の道路等への関心が高まるので、有効である。
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市HPへの掲載	令和2年12月1日 ～12月15日	令和2年12月1日 ～12月15日	持参、郵送、FAX、電子メール	企画総務課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	パブリックコメントによる提出意見は0件
-------	---------------------

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	徳島大学 大学院社会産業理工学研究部 奥嶋教授	令和2年12月22日	企画総務課	評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	阿波市健康づくり推進委員会 会長 阿波市消防団 消防団長 阿波市防災士会 会長 (一社)阿波市観光協会				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が行われたことが確認された。
	成果の評価	・数値目標が達成されていることが確認された。目標は達成されているが、総合防災訓練の参加者数には地区の偏りがあり、自主防災組織及び自主防災連合会の結成が重要であるという意見があった。
	実施過程の評価	・阿波市アドプト事業募集は、効果的な取組であることから、企業のイメージ向上等につながる等のPR強化に努めることが必要という意見があった。
	効果発現要因の整理	・各地区の交流防災広場を活かした防災イベントや避難訓練、健康づくり緑地やもてなし広場を活かした健康イベント等の取組を進めることで、更なる効果が期待されるという意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表が適切に行われたことが確認された。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・各地区の交流防災広場を活かした防災イベントや避難訓練の開催を期待するという意見があった。 ・「コロナ禍の中で、テレワークなどの働き方の変化も踏まえながら移住・定住施策に取組むことが必要」や「他市町村の成功事例等から学ぶための視察や見学等を行うべき」という意見があった。意見を踏まえ、多様な移住・定住施策を検討すると回答。
	フォローアップ	・特になし
	その他	・既存の看板の情報更新・修正等を進めることが必要という意見があった。 ・公園整備に関して、計画当初の段階から住民意向の反映や買い物ついでに利用できるといったような身近な公園を求める意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると確認された。
その他		・特になし

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。